



自分の命、大切な人の命を守る

校長 石田 和義

今年度の2学期は、4日遅れのスタートとなりました。県内で3年ぶりに線状降水帯が発生し、8月26日の夜から雷を伴った雨が断続的に降り、8月27日、28日の2日間が休校になったためです。

31日の始業式では、元気な子どもたちの様子を見て安心するとともに、改めて「自分の命は自分で守る」ことの大切さを伝えました。その際、子どもたちに、大雨によって河川が氾濫した場合、堀川小学校の最大想定浸水深が1.1メートルで

最大想定浸水深を

確認する子ども

あること、そして水害発生時は堀川小学校の体育館が避難所になることを伝えました。子どもたちには、雨は、自分たちの暮らしにとって恵みであると同時に、時には命の危険を及ぼす、怖く、恐ろしいものであること、そして自分たちが暮らす堀川校下も大きな被害が起きる可能性があることを知ってほしかったからです。

始業式の翌日の9月1日防災の日に、シェイクアウト訓練を実施しました。シェイクアウト訓練とは、2008年にアメリカ・カリフォルニア州で始まり、地震を想定して参加者が一斉に身を守るための安全確保行動を実施するという新しい形の訓練です。（富山県HPより）

シェイクアウト訓練実施後の子どもたちの振り返りを紹介します。

安全確保行動をとる子ども

地震が起きれば、窓ガラスが割れたり、テレビや棚が倒れたりしてとても危ないから、どこに避難すればよいか、道路が崩れて危ない場所はどこか、しっかりと確かめたいと思いました。（2年生児童）

今日の訓練は机の中に入る訓練だったけど、熊本地震のように震度7だったら、机は揺れて入ることができないと思うから、そういう時は、外に逃げないといけないと思いました。（3年生児童）

今日の訓練では、真剣さが保てたと思うので、実際に災害が起きた時に活かしたいです。第一優先は頭を守ることだと思います。自分の命は一つしかないから大切にしていきたいです。（6年生児童）

実際に地震が起きたことを自ら想像して、その時、自分や大切な人の命を守るためにどう行動すればよいか、真剣に考え合う子どもたちの姿を見ることができました。

始業式では、水害の危険性、恐ろしさに真剣に耳を傾ける子どもたちを目の当たりにして、マイ・タイムライン（「私と家族の計画」）について話しました。子ども一人ひとりが家族のひとと、自分だけでなく、大切な人の命を守るための方法をいっしょに考えてほしいと願ったからです。マイ・タイムラインとは、私たち一人ひとりが、台風の接近や集中豪雨などで河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる防災行動について時系列で整理し、計画しておくものであり、その作成については、富山県のホームページに掲載されています。

よろしければ、保護者、地域の皆様には、自然災害に備え、ぜひ子どもたちと共にマイ・タイムラインについて話し合ったり、作成したりしていただき、時間の猶予がない洪水発生時においても、「逃げ遅れゼロ」「自分の命、大切な人の命を守る」ことを目指していただくよう、よろしくお願いいたします。



9月の行事予定

- 1日(火) 集金振替日
避難訓練(シェイクアウト訓練)
- 3日(木) 委員会活動
- 5日(土) 資源回収②
- 8日(火) 身体測定・視力検査(4・5・6年・なかよし組)
- 9日(水) 身体測定・視力検査(1・2・3年)
- 10日(木) 堀川チャレンジ活動
- 17日(木) 全校校外学習
- 18日(金) 堀川校下敬老の会 教育実習閉講式
- 21日(月) 敬老の日
- 22日(火) 国民の休日
- 23日(水) 秋分の日
- 24日(火) 創校記念日 委員会活動
- 28日(月) 研修会(短縮4限)
- 29日(火) ドリームアスリート事業(6年)
- 30日(水) 第3区域連合音楽会(5年)



10月の行事予定



- 1日(木) 小中連携挨拶運動① 堀川チャレンジ活動
- 5日(月) 運動会全体練習①
- 7日(水) 小中連携挨拶運動②
- 8日(木) 運動会全体練習② 運動会係委員会活動
- 12日(月) スポーツの日
- 13日(火) 運動会予行練習
- 14日(水) 科学博物館利用学習(4年)
- 15日(木) 堀川チャレンジ活動
- 17日(土) 運動会
- 19日(月) 振替休業日
- 22日(木) 委員会活動
- 28日(水) 就学時健康診断
- 29日(木) 児童集会 堀川チャレンジ活動
- 30日(金) 堀小ふれあいフェスティバル前日準備
- 31日(土) 堀小ふれあいフェスティバル

※状況によっては、変更する場合があります。

立山が教えてくれたこと

6年3組 山崎 加奈

8月6日(木)、7日(金)の2日間、6年生は集団宿泊学習(立山登山)を行いました。それから約3週間後の始業式の日、私は学級の子どもたちに「立山があなたに教えてくれたことは何ですか」と問いかけました。子どもたちは「自然の美しさや厳しさ」「前を向いて一歩進むこと」「諦めなければ、できないと思っていることでもできるようになること」「仲間の言葉が心を燃やすこと」等、立山での自分の姿を思い起こしながら、その子らしい言葉で表現していました。

Aさんは「一人ひとりを思って助け合うこと」と答えました。Aさんのファミリーには、以前から登山に不安を抱えるBさんがいました。そのため、当日の登山では、Bさんが安心できるように手をつなぐAさん、「大丈夫だよ」と声をかけ続けるCさん、登山道の切れ間を見付けると必ず「溝があるよ。気を付けて」と教えるDさんの姿がありました。Bさんのためにそれぞれ自分ができることを自然と行っていました。

しかし、山頂までの道のりは陰しく、体力が消耗し、気持ちも弱っていくBさんの足が止まってしまうことがありました。隊列の先頭にいた私は、離れたところから「頑張れー!」と声をかけることしかできませんでした。しばらくして隊列を振り返ると、一列になった4人の子どもたちがぎゅっと手をつなぎ、一歩一歩確実に歩みを進める姿が目に残りました。そのときの様子をAさんは「Dさんは、Bさんが落ちないように後ろから支えてくれた。Cさんは、Bさんと手をつないで片手がふさがっている私の手を引いてくれた。それで、Bさんも頑張ろうと思ってくれて、一人ひとりをみんなで大切に助け合っていたから、登山を達成することができたのだと思う」と振り返っていました。仲間の思いを感じて自分にできることを行う温かさを実感し、同時に自分も助けられている安心感を得たAさんだからこそ、「一人ひとりを思って助け合うこと」と表現したのでしょう。Aさんは「これからは、学級の一人ひとりの仲間のこと大切に助け合っていきたい」と考え、助け合いの輪を更に広げようとしています。

歩いた道のりは同じでも、その子だからこそ感じたこと、その子にしか得られないものがそれぞれにあります。一人ひとりが見付けた「立山が教えてくれたこと」とそれをこれからのくらしで大切にしようとする思いを受け止め、それぞれが自分の力を存分に発揮しながら自分の信じる道を歩んでいくことができるよう支えていきたいと思います。



【一歩一歩積み重ねる子どもたち】